

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 加藤 哲也
幹事 久米 博明
会報委員長 鬼頭 一浩

2016 ~ 2017年度 国際ロータリー ジョン F. ジャーム 会長テーマ

Rotary serving humanity 人類に奉仕するロータリー

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2957回例会プログラム

[当年度=25回目; 当月=1週目]

2017年(平成29年) 2月6日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. 国歌斉唱
5. ロータリーソング斉唱……奉仕の理想
6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
7. 食事
- 12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告
9. お祝い
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
10. 幹事報告
11. 出席報告
12. 委員会報告
13. ニコニコボックス報告
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(2/13) ……
休会(クラブ定款第6条第1節)
(2/20) ……
卓話 「FC刈谷の報告と目標」
講師 かえるスポーツクラブ・FC刈谷
会長 犬飼 博樹 様
(紹介者 下谷 敏朗 会員)
- 13:00 15. 本日のプログラム
新入会員アワー
菊地 康英 会員
小河 俊文 会員
16. 謝辞
17. 点鐘……〈会長〉
18. 閉会宣言
13:30 19. 散会

出席

会員総数 94名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名
欠席 9名 出席率 89.29%
前々回(1/23)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 鈴木文三郎会員にマルチプル・ポールハリスフェローのピンバッジをお渡し致します。



委員会報告

●プログラム委員会

- 1) 4月17日卓話をお願いしています、シーホース三河株式会社 of 鈴木社長様より、バスケットボールBリーグ交流戦シーホース三河対レバンガ北海道のチケットを頂きました。

皆様のボックスにチラシとチケットを入れさせて頂きました。今週2月18日(土曜日)14:00ウィングアリーナ刈谷で行われますのでお時間がありましたら是非応援よろしくお願ひします。

落語 “火焰太鼓”

加藤 哲也



市で古い太鼓を仕入れてきた道具屋の甚兵衛。これで大儲けをすると息まいている。脇の女房はあきれ顔。なにせ怪しげな物ばかり仕入れてきては損してばかりいる亭主。見るからにほこりだらけの汚い太鼓なんかで儲かるわけがないと思っているのだ。

甚兵衛は小僧に表で太鼓のほこりを払うように言いつけた。小僧が力まかせに叩くものだから、ドンドンドンドンとうるさいのなんの。女房がよけにいきり立つ。

そんなところへ一人の侍が入ってきた。殿様が通りがかりに太鼓の音を聞いたと言う。てっきりうるさいと叱られると思った甚兵衛が、小僧のせいにしてあやまるが、どうもそうではないらしい。殿様が太鼓の音を気にいって買うつもりだから、屋敷へ持ってこいという口上だ。

疑り深い女房は、音が気にいったとしても太鼓を見たら、あまりの汚さに殿様は怒りだすに違いない。へたをすると帰してもらえないかもしれないと甚兵衛をおどした。

おっかなびっくり屋敷へ出向いた甚兵衛に先刻の侍が対応に出た。太鼓を持って奥に入り、戻ってくると太鼓は火焰太鼓という名品、殿がいたく気にいられたので買うと言う。

安心した甚兵衛と侍の間で値段の交渉が始まった。侍が好きな値をつけろというので、とりあえず甚兵衛は差し値は十万両。驚く侍に、そのかわりいくらでもまけますからと言いわけをするおかしな商売。もともと無事に帰れば良いと思っているから、値段のことなんか深く考えていない。

結局、侍が三百金の値をつけた。その意味が甚兵衛にはピンとこない。小判で三百両のことだと説明され、「ひえー」と腰を抜かした。

感激のあまり、泣きべそをかきながら五十両ずつの包みで三百両を受けとって、屋敷をあとにする。

夢心地で家に帰ってきた甚兵衛を見て、女房は屋敷から逃げてきたのだと思い、「追っかけられたんだろう。天井裏へ隠れておしまい」

しかし、甚兵衛は大いばりでことの次第を説明する。三百両で売れたと言ったとたん、女房も腰を抜かして座りこんでしまった。

懐から五十両ずつ出した小判を積みあげるたびに、後ろへひっくり返ったり、気を失いそうになったり。

「ああ、ああ、お前さん商売が上手だよ」

「てやんでえ、ほら三百両」

「これからはもう音のする物にかぎるねえ」

「今度は半鐘を買ってきて…」

「半鐘はいけないよ。おじゃんになる」

2月の会員の誕生日…盛田豊一、橋本恭典、岩瀬正人、中林久美、伊藤節夫、池田直樹、加藤大志朗、石川友美、佐野彰彦会員。

配偶者の誕生日…平野恵子（和一）、野村弘子（重彦）、杉浦光子（芳一）様。

2月度結婚記念日…廣根実、橋典子、加藤正則、市川裕大、中川耕児会員。

2月度入会記念日…羽田育哉、神谷光義、加藤真治、市川裕大、神野公秀、杉浦文雄、豊田貴久会員。

新入会員アワー(1)

菊地 康英 会員



こんにちは。大興運輸株式会社の菊地です。

卓話のテーマは、「これまでの会社生活で学んだこと」です。

1981年に豊田自動織機に入社し、最初のエンジン事業部営業部では、お客さんとの価格交渉や、社内の原価企画を通して、仕事の基本を学ぶ機会に恵まれ、デミング賞受賞活動に関わることで、QC的ものの見方・考え方や、PDCAのサイクルを回した仕事のやり方を学ぶことができ、会社生活の原点となりました。

次の経理部では、全ての勘定科目に関わって、決算や税務まで幅広くやることができ、コンプレッサ事業部企画管理室では、仕事のスピードが大事だと感じました。

2002年に異動した物流部門の仕事では、コンビニの大手さんとの仕事をしましたが、初めてお付き合いする業界・お客様ということもあり、新鮮な感覚で仕事ことができました。

また、通販、文具、食品等いろいろな業種・お客さんとの付き合いがあり、人事制度、利益管理等いろいろな切り口でお客様と交流を持つことができ、安全やコンプライアンス等いろいろな機能のことを浅くではありますが、広く関わることができ、現在の職務に役立っています。

2012年から3年間、ALSO株式会社で仕事をしましたが、これまでの経験が生きた事例として、取り組んだ活動の一つを紹介します。

運営開始して1年くらい経っていたセンターの例ですが、安全面では不安要素が多くあり、品質もお客さんの物流センター14の中では下位に位置し、生産性も伸びず、当初企画した数値が達成できない状況にありました。このセンターは改善の余地が大きい、ALSOの仕事のやり方のモデルセンターであるべきと考え、改善方針を立てて、みんなで方策を施すことにしました。

まずは現状把握ですが、災害や品質不良の一つひとつをしっかりと分析することから始めました。次にその原因を追究し、対策を考え・講じること。そしてその結果を確認して、歯止め、あるいは2次対策を講じること。要は、QCストーリーに基づいたアプローチを行って、進めました。

お客さんを巻き込み、役割分担をしっかりと行い、計画

還暦のお祝い

中林 久美 会員

を細かくフォローして、中間報告を何回か行って、進めました。途中うまくいかないこともありましたが、よく話し合っただけで進めることで、理解が深まり、1年かけて、ほぼ計画通りに終わりました。

結果として、災害が発生しない状況ができ、その状態が続くことで安心して仕事ができる環境となり、品質も改善して、お客さんの全14センター中1位を獲得し、その状況を継続することで、生産性も目標以上に向上することができました。

また、掲示板を使って情報伝達・共有の場を充実させたり、パートさんからの提案・要望箱を設けて、自由に意見・要望を言ってもらい、それに対応することで信頼関係が強まり、そのプロセスで多くの人が成長したと感じることができました。

お客さんには、活動結果が評価され、それにもまして、ALSOという会社の考え方、仕事の取組みが評価され、新たに3つの物流センターの仕事のいただき、他にも引き合いをいただける状況になりました。

去る時に全センターを回りましたが、多くの方が「ありがとうございます。引き続き頑張ってください。」と言ってくれたこと、そして、正社員や派遣も含めて100人ほどになります全員にメールを打ち、ほぼ全員から返ってきたことが、一番の嬉しいことです。

会社生活で最も重要だと感じる 人を大事にすることは、ロータリーの精神にも通じると思いますので、そうした心を持って、やっていきたいと思っています。

新入会員アワー(2)

小河 俊文 会員



皆様こんにちは。豊田自動織機の小河でございます。昨年の8月から、それまでの石川覚雄さんの交代として、ロータリーのメンバーに加えていただきました。どうぞよろしく、お願い致します。

本日は新入会員アワーということで、私の経歴とともに、豊田自動織機についてもお話をさせていただこうと思います。

私は、昭和28年に刈谷市の隣の町、大府市で生まれました。只今63歳です（年齢よりも若く見られます）。近くの神田小学校、大府中学校に通いました。現在大府市には中学校が4つありますが、当時はひとつだけで、1学年14クラス約550名のマンモス中学でした。

高校は刈谷高校、横根から境川・逢妻川の橋を渡り、中手山・高津波・熊村・八幡を抜けて、自転車30分かけて通いました。地名があまりに地元密着で、わからない方が多いと思いますが御容赦下さい。

その後、名古屋の大学に通い、就職はこれまた地元の織機ということでございます。高校の通学途上、いつも緑色のブラインドが下りたこの建物は何だろう、何だか古びた建物だなあと思いつつ、その前の道を自転車で通っていましたが、まさか自分がこの会社に入るとは、さらに40年以上もここに通うことになるとは、夢にも思いませんでした。

会社に入ってその後結婚し、暫くは刈谷の小山に住んでいましたが、現在は大府の桃山に妻と二人で暮らして

います。子供は娘二人、いずれも嫁いでおります。

さて、その古びた建物と思った会社ですが、刈谷の地に本社を構えた織機のことを、皆さんどれくらい御存知でしょうか。地元にあるのに、その実態はあまり知られてないのではと思います、本日は少し会社のことを、お話ししたいと思います。

そこで皆さん問題です。

第1問、豊田自動織機の設立は、いつでしょう？

正解は大正15年の11月、今年で創立90周年です。

第2問、織機の主要な事業は、何でしょう？

正解は産業車両事業です。元来は繊維機械、豊田佐吉翁が発明した織機を製造することを目的に設立された会社ですが、現在は、産業車両・フォークリフトがメインです。また、自動車の組み立て、エンジン、カーエアコン用コンプレッサーなども製造しています。元々の繊維機械は、今では全体の3%です。

続けて第3問、国内に工場はいくつあるでしょう？

正解は、10です。私の入社した昭和51年当時は、刈谷・高浜・大府・共和・長草の5工場でしたが、その後、碧南・半田・安城・東浦・森岡と増えました。いずれも近くにあり、私の住んでいる大府からは、一番遠い碧南工場でも、車で1時間あれば行くことができます。

海外には、米国ではミシガン、インディアナ、ジョージアなどに、ヨーロッパではドイツ、フランス、スウェーデン、イタリアなどに、アジアでは中国、インド、インドネシアなどに主要な工場があり、それぞれの拠点には、日本人が現地に出向してマネジメントあるいはコーディネートしています。

従業員は、織機本体に約14,000人、内外の子会社を含めると、グループ全体では50,000人を数えます。

このように、グローバルに展開している会社ですが、続いて第4問です。私はどれにあてはまるでしょう？

a. 海外勤務の経験がない b. 営業の経験がない c. 工場勤務の経験がない。正解は、全てです。私は先程、地元で生まれ、県内の大学そして地元の会社に就職と紹介させていただきましたが、会社に入ってから、40年以上刈谷の地に勤務しています。あの緑色のブラインドの下りたビルのなかで、働いてまいりました。

何をしてきたのかといいますと、入社から5年間は経理部で算盤と伝票処理、その後、経営企画部、コンプレッサー事業企画部、再び経営企画部、経理部。ここで、役員になりました。役員になってからは、経理・財務・情報システム・法務・監査を担当してきました。昨年の6月からは監査役です。海外勤務、工場勤務の経験はなく、非営業・非人事畑の私ですが、仕事をするに際して、モットーとしてきたことがあります。私の経験から生まれた仕事の進め方です。

「木も見る、森も見る」

よく仕事をしていると重箱の隅をつつく様な事に陥りがちですが、常に全体像を把握することは大切です。

「よく見る、しっかり聞く、はっきり言う」

申年の昨年は、三猿の諺で、見ざる聞かざる言わざるという三匹の猿がよく紹介されましたが、会社においては、この逆でいくのが肝要であると考えています。

最後に、私も還暦を過ぎました。歳月人を待たず、今この時が大事、日々是好日となるような暮らし方ができればと、願っております。

本日は、拙い話を最後までご清聴くださり、誠にありがとうございました。